

地域検討会議で寄せられた意見の反映状況等

	意見等	反映状況等
1	- 学校規模によらず、平等公平に高校教育を受けられるようにしていただきたい。 - 小規模校・大規模校それぞれの特性を活かして、子ども中心の教育を推進していくべきである。	学校規模の大小に関わらず、各校が特色・魅力ある教育活動を展開することが重要である等とし、望ましい学校規模を設定しない。
2	1 学級校も含めた各地域の学校をできるだけ維持するという方針を継続していただきたい。 - 地域に根ざした活動を行っている高校については存続を求める。 - 地方活性化の観点からも、地域に高校があることには大きな意味がある。	1 学年 1 学級校の存在が、高校を核とした地方推進に大きな役割を果たしている地域において、所在する自治体等と連携することで教育活動の充実が図られている場合、1 学年 1 学級校の普通高校については「地域校」とし、地域における学びの機会を保障する。
3	- 地域全体で人手不足が深刻化している中、専門学科の充実による人材育成が必要である。 - 専門高校は、地域の基幹産業を支える重要な役割を果たしており、最新設備の導入や学科の最適化な等の環境整備を進めることが重要である。 - 必要な資質・能力を備えるためには、ある程度の規模を有する学校が必要である。	農業、工業、商業の専門分野の中心的役割を担う専門高校については、学校規模を維持することにより、専門分野の多様な学びの機能を有する職業教育のセンター・スクールとして、教育内容の充実を図る。なお、農業高校は 1 学年 4 学級以上、工業高校は 1 学年 5 学級以上、商業高校は 1 学年 4 学級以上を学校規模の原則とする。
4	- 入学生確保のため、県の魅力化推進事業との連携を希望する。 - いわて留学の取組に対し、県教委から市町村に対する支援を実施していただきたい。	- 地域連携コーディネーターの配置支援、新たに配置されたコーディネーターの資質向上や地域内外との連携強化の取組等について、国の動向や他県の状況を踏まえ推進する。 - 高校、市町村に対して県外生徒の受け入れ体制の整備等に係る伴走支援を推進する。
5	- 専門高校において、子ども達が進んで通いたくなるような、特色ある高校づくりを進めて欲しい。 - 地元産業のニーズを満たすための、即戦力となる専門教育が必要である。	- 盛岡工業高校について、地域振興の方向性や産業構造、中学生の志望動向、高校卒業後の進路状況等を見据え、令和 10 年度に学科の改編を行ったうえで、令和 12 年度を目途に旧盛岡南高校の校舎及び施設等を活用した教育環境の整備をする。 - 黒沢尻工業高校について、地域振興の方向性や産業構造、中学生の志望動向、高校卒業後の進路状況等を見据え、令和 9 年度に既存の 1 学科を半導体関連の学科へ改編する。 - 宮古水産高校については、水産及び調理師養成施設の学びのバランスを考慮して、令和 10 年度に県立高校の水産及び調理師養成施設の学びを集約し、機能の重点化を図る。
6	総合学科高校については、県としてその在り方を検討する時期に入っているのではないかな。	地域の産業構造やニーズを踏まえた系列編制や学びの内容となるよう、系列の見直しや学びの在り方等について検討するとともに、総合学科高校の今後の在り方について、前期計画期間中に検証を行い、方向性を検討する。

盛岡地区の県立高校の状況

1 募集学科・在籍生徒数等（令和7年度：全日制）

学校名	募集学科(定員)	募集 定員	全 校 学級数	在 籍 生徒数	備考
盛岡第一	普通(240)、理数(40) ※普通・理数くくり募集	280	21	856	
盛岡第二	普通(200)	200	15	563	
盛岡第三	普通(280)	280	21	848	
盛岡第四	普通(240)	240	18	726	
盛岡北	普通(200)	200	15	591	
南昌みらい	普通(4学系：文理160、芸術40、外国語40、スポーツ科学80)	280	30	1163	R7 新設
盛岡農業	【農業】動物科学(40)、植物科学(40)、食品科学(40)、人間科学(40)、環境科学(40)	200	15	410	
盛岡工業	【工業】機械(40)、電気(40)、電子情報(40)、電子機械(40)、工業化学(40)、土木(40)、建築・デザイン(40)	280	21	693	
盛岡商業	【商業】流通ビジネス(80)、会計ビジネス(80)、情報ビジネス(80)	240	18	709	
沼宮内	普通(40)	80	3	71	R5 学級減
葛巻	普通(80)	80	6	123	
平舘	普通(40)、【家庭】家政科学(40)	80	6	78	
雫石	普通(40)	40	3	88	
紫波総合	総合(120) (4系列：福祉・健康、情報・経済、ライフデザイン、エコジャー・フード)	120	9	253	R5 学級減

2 入試の状況

※網掛けは学級減等を表す

学校名	学科	R5				R6				R7			
		定員	総志願者	合格者	定員差異	定員	総志願者	合格者	定員差異	定員	総志願者	合格者	定員差異
盛岡第一	普通・理数	280	357	286	6	280	322	286	6	280	331	287	7
盛岡第二	普通	200	216	200	0	200	191	182	▲18	200	196	195	▲5
盛岡第三	普通	280	333	285	5	280	364	287	7	280	324	286	6
盛岡第四	普通	240	358	246	6	240	284	245	5	240	298	246	6
盛岡北	普通	200	248	200	0	200	250	200	0	200	241	200	0
南昌みらい	文理	—	—	—	—	—	—	—	—	160	184	161	1
	芸術	—	—	—	—	—	—	—	—	40	34	34	▲6
	外国語	—	—	—	—	—	—	—	—	40	34	36	▲4
	スポーツ科学	—	—	—	—	—	—	—	—	80	93	80	0
(盛岡南)	普通・普通	120	153	121	1	120	168	121	1	—	—	—	—
	普通・体育	40	37	40	0	40	49	40	0	—	—	—	—
	体育	40	34	34	▲6	40	40	40	0	—	—	—	—
(不来方)	人文理数	120	191	121	1	120	197	121	1	—	—	—	—
	芸術	40	46	37	▲3	40	66	40	0	—	—	—	—
	外国語	40	44	40	0	40	42	40	0	—	—	—	—
	体育	40	48	40	0	40	40	40	0	—	—	—	—
盛岡農業	動物科学	40	49	41	1	40	32	31	▲9	40	35	35	▲5
	植物科学	40	26	26	▲14	40	15	16	▲24	40	12	13	▲27
	食品科学	40	52	41	1	40	34	33	▲7	40	51	42	2
	人間科学	40	19	22	▲18	40	21	20	▲20	40	28	35	▲5
	環境科学	40	32	33	▲7	40	23	23	▲17	40	18	18	▲22
盛岡工業	機械	40	34	34	▲6	40	41	40	0	40	39	37	▲3
	電気	40	29	29	▲11	40	37	36	▲4	40	40	40	0
	電子情報	40	35	36	▲4	40	41	40	0	40	44	40	0
	電子機械	40	38	37	▲3	40	37	36	▲4	40	39	38	▲2
	工業化学	40	15	15	▲25	40	19	20	▲20	40	8	11	▲29
	土木	40	29	27	▲13	40	39	37	▲3	40	37	36	▲4
	建築・デザイン	40	42	38	▲2	40	39	40	0	40	42	40	0
盛岡商業	流通ビジネス	80	79	75	▲5	80	109	82	2	80	97	82	2
	会計ビジネス	80	66	72	▲8	80	90	82	2	80	91	82	2
	情報ビジネス	80	98	82	2	80	98	82	2	80	98	82	2
沼宮内	普通	40	34	34	▲6	40	21	21	▲19	40	22	21	▲19
葛巻	普通	80	40	40	▲40	80	48	48	▲32	80	42	42	▲38
平舘	普通	40	28	28	▲12	40	20	19	▲21	40	16	16	▲24
	家政科学	40	9	9	▲31	40	6	6	▲34	40	3	3	▲37
雫石	普通	40	21	21	▲19	40	31	29	▲11	40	41	39	▲1
紫波総合	総合	120	93	92	▲28	120	96	95	▲25	120	88	86	▲34
盛岡地区計		2,720	2,933	2,482	▲238	2,720	2,910	2,478	▲242	2,600	2,626	2,363	▲237

3 市町村の中学校卒業者の推移 (R7. 5. 1 時点)

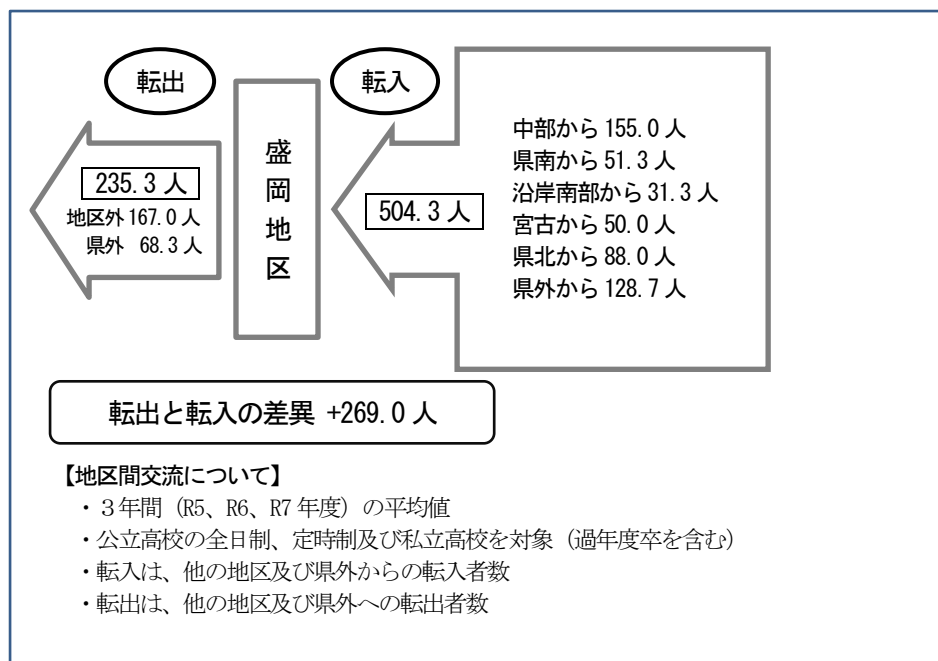
※中段：対前年比、下段：対 R7 年比

	R7年3月	R8年3月	R9年3月	R10年3月	R11年3月	R12年3月	R13年3月	R14年3月	R15年3月	R16年3月	R17年3月	R18年3月	R19年3月	R20年3月	R21年3月
盛岡	2,536	2,535	2,408	2,383	2,332	2,291	2,259	2,159	2,119	1,905	1,788	1,774	1,767	1,639	1,551
		-1	-127	-25	-51	-41	-32	-100	-40	-214	-117	-14	-7	-128	-88
		-1	-128	-153	-204	-245	-277	-377	-417	-631	-748	-762	-769	-897	-985
*盛岡	2,445	2,447	2,321	2,310	2,255	2,211	2,192	2,077	2,054	1,869					
		2	-126	-11	-55	-44	-19	-115	-23	-185					
		2	-124	-135	-190	-234	-253	-368	-391	-576					
*玉山	91	88	87	73	77	80	67	82	65	36					
		-3	-1	-14	4	3	-13	15	-17	-29					
		-3	-4	-18	-14	-11	-24	-9	-26	-55					
雫石	131	123	111	104	99	125	100	113	99	81	70	65	64	56	53
		-8	-12	-7	-5	26	-25	13	-14	-18	-11	-5	-1	-8	-3
		-8	-20	-27	-32	-6	-31	-18	-32	-50	-61	-66	-67	-75	-78
滝沢	557	555	528	530	504	524	505	497	478	461	464	430	368	346	319
		-2	-27	2	-26	20	-19	-8	-19	-17	3	-34	-62	-22	-27
		-2	-29	-27	-53	-33	-52	-60	-79	-96	-93	-127	-189	-211	-238
紫波	275	288	293	275	298	301	264	259	275	290	251	236	241	221	176
		13	5	-18	23	3	-37	-5	16	15	-39	-15	5	-20	-45
		13	18	0	23	26	-11	-16	0	15	-24	-39	-34	-54	-99
矢巾	236	228	235	231	234	235	239	229	217	201	167	151	148	137	142
		-8	7	-4	3	1	4	-10	-12	-16	-34	-16	-3	-11	5
		-8	-1	-5	-2	-1	3	-7	-19	-35	-69	-85	-88	-99	-94
盛岡地域	3,735	3,729	3,575	3,523	3,467	3,476	3,367	3,257	3,188	2,938	2,740	2,656	2,588	2,399	2,241
		-6	-154	-52	-56	9	-109	-110	-69	-250	-198	-84	-68	-189	-158
計		-6	-160	-212	-268	-259	-368	-478	-547	-797	-995	-1,079	-1,147	-1,336	-1,494
八幡平	146	154	157	150	143	140	149	130	125	116	100	99	97	83	69
		8	3	-7	-7	-3	9	-19	-5	-9	-16	-1	-2	-14	-14
		8	11	4	-3	-6	3	-16	-21	-30	-46	-47	-49	-63	-77
*西根	94	102	98	101	81	102	99	90	86	88					
		8	-4	3	-20	21	-3	-9	-4	2					
		8	4	7	-13	8	5	-4	-8	-6					
*松尾	35	42	39	33	38	26	31	22	21	13					
		7	-3	-6	5	-12	5	-9	-1	-8					
		7	4	-2	3	-9	-4	-13	-14	-22					
*安代	17	10	20	16	24	12	19	18	18	15					
		-7	10	-4	8	-12	7	-1	0	-3					
		-7	3	-1	7	-5	2	1	1	-2					
葛巻	23	35	27	25	42	22	19	17	22	14	22	22	21	21	18
		12	-8	-2	17	-20	-3	-2	5	-8	8	0	-1	0	-3
		12	4	2	19	-1	-4	-6	-1	-9	-1	-1	-2	-2	-5
岩手	77	85	65	79	87	62	69	64	52	64	55	58	52	45	36
		8	-20	14	8	-25	7	-5	-12	12	-9	3	-6	-7	-9
		8	-12	2	10	-15	-8	-13	-25	-13	-22	-19	-25	-32	-41
岩手地域	246	274	249	254	272	224	237	211	199	194	177	179	170	149	123
		28	-25	5	18	-48	13	-26	-12	-5	-17	2	-9	-21	-26
計		28	3	8	26	-22	-9	-35	-47	-52	-69	-67	-76	-97	-123
盛岡地区計	3,981	4,003	3,824	3,777	3,739	3,700	3,604	3,468	3,387	3,132	2,917	2,835	2,758	2,548	2,364
		22	-179	-47	-38	-39	-96	-136	-81	-255	-215	-82	-77	-210	-184
		22	-157	-204	-242	-281	-377	-513	-594	-849	-1,064	-1,146	-1,223	-1,433	-1,617

* 合併前の旧市町村名

第3期県立高等学校再編計画後期計画期間(R8～R17)

4 地区間交流の状況 (3年間の平均)



5 入学者の推計 (R7.5.1 時点)

第3期県立高等学校再編計画期間(R8～R17)

学校	学級数	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20	R21
盛岡一	7	287	288	276	273	269	265	259	250	243	222	208	202	198	183	172
盛岡二	5	195	196	187	186	182	181	177	170	166	152	142	138	134	124	117
盛岡三	7	286	290	277	275	270	265	260	249	243	223	209	204	199	184	171
盛岡四	6	245	250	240	236	234	231	224	216	212	195	181	177	175	162	150
盛岡北	5	200	205	194	194	190	186	183	176	170	158	151	146	137	127	117
南昌み	8	311	318	308	303	305	299	291	281	276	256	227	218	213	197	183
盛岡農	5	142	144	137	137	134	130	129	124	119	110	104	100	94	86	79
盛岡工	7	240	240	231	228	225	223	217	210	204	187	173	168	163	151	141
盛岡商	6	246	243	234	231	228	226	220	212	207	192	178	172	168	155	144
盛市立	7	284	281	267	265	257	259	251	244	236	216	205	198	189	176	165
沼宮内	1	21	25	20	23	25	19	20	19	16	18	16	17	15	13	11
参考値			27	22	25	27	21	22	21	18	21	18	19	17	15	13
葛巻	2	42	39	34	32	41	29	27	24	26	21	24	24	23	22	19
参考値			47	42	39	48	36	34	31	33	27	31	30	29	29	26
平舘	2	19	27	28	27	25	25	26	23	22	21	18	18	17	15	13
参考値			27	28	27	25	25	26	23	22	21	18	18	17	15	13
雫石	1	39	23	21	20	19	23	19	21	19	16	14	13	13	11	11
参考値			29	27	26	25	29	24	26	24	20	19	18	17	16	15
紫波総計	3	85	91	90	87	90	89	84	82	83	79	70	67	67	61	55
計	72	2,642	2,660	2,544	2,517	2,494	2,450	2,387	2,301	2,242	2,066	1,920	1,862	1,805	1,667	1,548
必要学級		67	67	64	63	63	62	60	58	57	52	48	47	46	42	39
参考値計			2,676	2,560	2,532	2,509	2,465	2,401	2,315	2,256	2,079	1,934	1,875	1,817	1,681	1,561
参考値必要学級数			67	64	64	63	62	61	58	57	52	49	47	46	43	40

【入学者推計について】

- ・ R 7 は実績値（入学者数は、合格者数と異なることがある）
- ・ 過去3年間の入学実績、及び中学校卒業予定者数推移に基づいて算出したもの
- ・ 網掛けはR 7 年度募集定員より40名以上の欠員又は20名以下の見込みを示す
- ・ 「参考値」は県境隣接協定及びいわて留学における他県からの入学生の推計を加えた値

令和7年度の入試状況について（県立高校全日制）

年 度	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
中 学 校 卒 業 者 数	10,677	10,092	10,396	10,077	9,954	9,675
募 集 定 員	8,960	8,960	8,920	8,720	8,680	8,520
総 志 願 者 数	8,197	7,670	7,969	7,601	7,483	6,897
合 格 者 数	7,491	7,194	7,219	6,910	6,804	6,531
欠 員	▲1,469	▲1,766	▲1,701	▲1,810	▲1,876	▲1,989
調整後志願倍率	0.87	0.82	0.85	0.82	0.80	0.80

令和7年度岩手県立高等学校募集定員・合格者数等（全日制）

地区	学校名	大学科	学科・学系 ・コース	募集 定員	合格 者数	過不 足数	総志願 者数
盛岡	盛岡第一	普通・理数	普通・理数	280	287	7	331
	盛岡第二	普通	普通	200	195	▲ 5	196
	盛岡第三	普通	普通	280	286	6	324
	盛岡第四	普通	普通	240	246	6	298
	盛岡北	普通	普通	200	200	0	241
	南昌みらい	普通	文理	160	161	1	184
		普通	芸術	40	34	▲ 6	34
		普通	外国語	40	36	▲ 4	34
		普通	スポーツ科学	80	80	0	93
	盛岡農業	農業	動物科学	40	35	▲ 5	35
		農業	植物科学	40	13	▲ 27	12
		農業	食品科学	40	42	2	51
		農業	人間科学	40	35	▲ 5	28
		農業	環境科学	40	18	▲ 22	18
	盛岡工業	工業	機械	40	37	▲ 3	39
		工業	電気	40	40	0	40
		工業	電子情報	40	40	0	44
		工業	電子機械	40	38	▲ 2	39
		工業	工業化学	40	11	▲ 29	8
		工業	土木	40	36	▲ 4	37
		工業	建築・デザイン	40	40	0	42
	盛岡商業	商業	流通ビジネス	80	82	2	97
		商業	会計ビジネス	80	82	2	91
		商業	情報ビジネス	80	82	2	98
	沼宮内	普通	普通	40	21	▲ 19	22
	葛巻	普通	普通	80	42	▲ 38	42
	平舘	普通	普通	40	16	▲ 24	16
		家庭	家政科学	40	3	▲ 37	3
	雫石	普通	普通	40	39	▲ 1	41
	14 紫波総合	総合	総合	120	86	▲ 34	88
	花巻北	普通	普通	240	217	▲ 23	223
	花巻南	普通	人文科学・自然科学	120	115	▲ 5	113
		普通	スポーツ健康科学	40	40	0	42
		普通	国際科学	40	24	▲ 16	24
	花巻農業	農業	生物科学	40	36	▲ 4	38
		農業	環境科学	40	22	▲ 18	22
		農業	食農科学	40	34	▲ 6	34
	花北青雲	工業	情報工学	40	28	▲ 12	28
		商業	ビジネス情報	80	80	0	81
		家庭	総合生活	40	29	▲ 11	29
	大迫	普通	普通	40	15	▲ 25	15
	遠野	普通	普通	120	108	▲ 12	113
	遠野緑峰	農業	生産技術	40	21	▲ 19	21
		商業	情報処理	40	8	▲ 32	8
	黒沢尻北	普通	普通	240	196	▲ 44	205
	北上翔南	総合	総合	160	126	▲ 34	127
	黒沢尻工業	工業	機械	40	29	▲ 11	29
		工業	電気	40	25	▲ 15	27
		工業	電子	40	25	▲ 15	25
		工業	電子機械	40	24	▲ 16	26
		工業	土木	40	13	▲ 27	13
		工業	材料技術	40	14	▲ 26	13
	11 西和賀	普通	普通	80	67	▲ 13	69
県南	水沢	普通・理数	普通・理数	240	232	▲ 8	242
	水沢農業	農業	農業科学	40	18	▲ 22	19
		農業	食品科学科	40	12	▲ 28	13
	水沢工業	工業	機械	40	21	▲ 19	22
		工業	電気	40	20	▲ 20	20
		工業	設備システム	40	30	▲ 10	30
		工業	インテリア	40	17	▲ 23	17
	水沢商業	商業	商業	40	28	▲ 12	27
		商業	会計ビジネス	40	24	▲ 16	23
		商業	情報システム	40	40	0	44
	前沢	普通	普通	40	32	▲ 8	33
	金ヶ崎	普通	普通	80	20	▲ 60	20
	岩谷堂	総合	総合	120	81	▲ 39	81
	一関第一	普通・理数	普通・理数	200	200	0	213
	一関第二	総合	総合	200	202	2	217
	一関工業	工業	電気電子	40	38	▲ 2	41
		工業	電子機械	40	40	0	43
		工業	土木	40	19	▲ 21	22
	花泉	普通	普通	40	40	0	41
	大東	普通	普通	80	27	▲ 53	27
		商業	情報ビジネス	40	3	▲ 37	3
	千厩	普通	普通	120	78	▲ 42	80
		農業	生産技術	40	28	▲ 12	30
	13	工業	産業技術	40	34	▲ 6	34

計 59

113学科（学系）

8,520 6,531 ▲ 1,989 6,897

※参考＜市立＞

学校名	大学科	学科・学系 ・コース	募集 定員	合格 者数	過不 足数	総志願 者数
盛岡市立	普通	特別進学コース	35	38	3	43
	普通	普通	160	164	4	194
	商業	商業	80	82	2	96
計 1			275	284	9	333

今後の県立高校に関する地域検討会議（第1回） 開催結果

1 実施時期

令和7年5月20日（火）～6月5日（木）の間（実施日は4 実施状況参照）

2 目的

「県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～」を踏まえ、各地区における高校のあるべき姿や地域の実情に応じた高校や学科の配置等について、地域の代表者等と意見交換（「地域検討会議」）を行い、次期県立高等学校再編計画の検討に資する。

3 第1回会議内容

- (1) 「県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～」についての概要説明
- (2) 地域の高校に関する状況等の説明
- (3) 各地区における高校及び学科の配置の在り方等についての意見交換

4 実施状況

地区名	地区内の市町村名	実施期日	会場	出席者数				
				地区代表	県議会議員	地区校長等	傍聴者(報道)	地区計
盛岡 (盛岡①)	盛岡市、雫石町、葛巻町、矢巾町	令和7年 5月20日	岩手県水産会館	20	9	16	7	52
盛岡 (盛岡②)	八幡平市、岩手町、滝沢市、紫波町	令和7年 5月27日	岩手県公会堂	19	4	5	7	35
中部	花巻市、北上市、遠野市、西和賀町	令和7年 5月23日	花巻市定住交流センター	20	7	12	19	58
県南	奥州市、金ヶ崎町、平泉町、一関市	令和7年 5月28日	奥州市役所 江刺総合支所	20	9	11	15	55
沿岸南部	陸前高田市、大船渡市、住田町、釜石市、大槌町	令和7年 6月4日	三陸公民館	22	1	9	8	40
宮古	宮古市、山田町、岩泉町、田野畑村	令和7年 6月5日	宮古地区 合同庁舎	19	2	7	18	46
県北 (県北①)	久慈市、洋野町、野田村、普代村	令和7年 5月26日	久慈地区 合同庁舎	16	2	5	9	32
県北 (県北②)	二戸市、一戸町、軽米町、九戸村	令和7年 5月23日	二戸地区 合同庁舎	18	2	5	11	36
計				154	36	70	94	354

地域検討会議（第 1 回）の主な意見等

ブロック	開催日	主な意見・提言等
盛岡 ① (盛岡市、雫石町、 葛巻町、矢巾町)	令和 7 年 5 月 20 日 (火) 10:00～12:00	・ 国の就学支援金の所得制限撤廃により、進学費用の面でハードルが下がり、中学生が私立高校に進学しやすい状況になることが予想される。少子化に伴い、生徒数の減少が進む中、私立高校との共存や定員調整についての慎重な議論が必要になると感じている。 ・ 中学生の進路の選択肢を閉ざさぬよう、今後、1 学級校の在り方については、柔軟な対応が大切である。また、盛岡市一極集中を是正する募集定員の調整や、私立高校と募集人数の調整等の検討も必要である。 ・ 高校には、地元の産業ニーズに応じた人材育成を進めて欲しいと感じており、地元根付いた産業の専門コースを設置することもよいのではないかな。 ・ 充実した高校生活を保障するためには、高校の適切な規模を維持する必要があると感じている。県立高校再編計画の策定の際にはその点も踏まえて慎重に検討していただきたい。 ・ 地域課題の解決に向け、知事部局や産業界と協力し、人材育成をより戦略的に進めるべきだと考えている。その際に、専門高校の担う役割は非常に重要である。
盛岡 ② (八幡平市、岩手町、 滝沢市、紫波町)	令和 7 年 5 月 27 日 (火) 10:00～12:00	・ 現計画において 1 学級校の入学者数が 2 年連続で 20 人以下の場合は原則として統合とされている一方、1 学級校も含めた各地域の学校をできるだけ維持するということが記載されている。次期県立高校再編計画においても、この方針を継続していただきたい。 ・ 今後、生徒数が減少する中、生徒が自分の将来に向けて多様な学びを選択できる環境や、県内各地域の特色を生かした学びの環境を引き続き作っていただきたい。 ・ 今後の教育政策を考えたときに、公立と私立の共存に踏み込まなければ、根本的な問題解決にはならないのではないかな。 ・ 地域産業の伝承や人材育成に向けた学びを充実させるため、専門高校の教育内容を地域産業と連携させ、専門分野に特化した学びの場を作る等、専門高校を差別化、個別化していくことが必要ではないかな。 ・ 国の制度として総合学科が設立されて約 20 年が経過したところであり、県としてその在り方を検討する時期に入っているのではないかな。
中 部 (花巻市、北上市、 遠野市、西和賀町)	令和 7 年 5 月 23 日 (金) 10:00～12:00	・ 医学部進学に関しては、県内志願者の学力の課題が指摘されており、中高一貫教育等を通じた学力向上が不可欠であると考ええる。 ・ 黒沢尻工業高校のように、半導体などの最先端分野に対応した独自のカリキュラムを導入する学校の取組を評価し、今後は志願者増と理工系人材の育成に繋がるよう専門学科の魅力化及び充実を求めたい。 ・ 専門高校において、子どもたちが進んで通いたくなるような、特色ある高校づくりを進めて欲しい。 ・ 少子化に伴い定員割れが常態化する中で、受検に対する緊張感やモチベーションが薄れている。定員の見直しや競争率の適正化によって学習意欲を高める工夫が必要ではないかな。 ・ 各学校が独自性を持ち、ブランド化していくことが求められる。地元教育委員会としても小中学校と連携し、地域全体で教育の質を高める取組を進めたい。 ・ 不登校・不適應の生徒の進路確保が課題であり、小規模校による温かい対応や学びの多様性へのニーズが高まっている。チャレンジスクールの公立での拡充が望まれている。

ブロック	開催日	主な意見・提言等
県 南 (奥州市、金ヶ崎町、平泉町、一関市)	令和 7 年 5 月 28 日 (水) 10:00～12:00	・ 私立高校への進学率が 15.7%に達しており、授業料無償化や魅力向上策によって公立高校からの流出が懸念される。今後は、人口減少と公立高校への進学者数減少の影響を踏まえた公立高校の戦略的対応が求められる。 ・ 農業、工業、商業などの専門高校は、地域の基幹産業を支えるために重要な役割を果たしている。最新設備の導入や学科の最適化などを通じ、地域産業の人材育成に貢献できる環境整備を進めることが重要である。 ・ 今後、高校を再編する場合は、生徒の学びを保障するために、学びの地域バランスに配慮しながら進めていただきたい。 ・ 人口減少と少子化の影響を受け、中学生の進路選択の多様性を確保するために、県立高校の再編を 6 地区の広域化で検討する必要性を認識している。 ・ 生徒やその保護者の希望する学びと地元自治体が希望する学びが一致しておらず、乖離が見られる。また、農業や工業等を専門的に学んでも、地元就職するとは限らず、県外就職の割合も多くなっている。専門教育の在り方の再考、カリキュラムの再編が必要ではないかと感じている。
沿岸南部 (大船渡市、陸前高田市、住田町、釜石市、大槌町)	令和 7 年 6 月 4 日 (水) 14:00～16:00	・ 医師となる人材を地域で育成していくという観点から、医学部進学コース等を設置し、医療人材育成にも取り組んでいただきたい。 ・ 1 学級校もできる限り維持するという後期計画の考え方について、次期再編計画でも踏襲していただきたい。 ・ 少子化等の影響を考えると、県立高校の再編は絶対に必要だと考えるが、単に人数により統合するのではなく、ビジョンを持った統合としてもらいたい。 ・ 地域みらい留学や地域連携コーディネーターの導入は学校の活性化に有効だと考える。学校の運営を教員だけに任せず、自治体と連携した支援が重要である。 ・ 中学校の不登校生徒の増加に伴い、定時制、通信制高校の選択肢を拡充すべき。また、沿岸地域に定時制と通信制併設校を設置し、生徒の選択肢を増やすことが必要ではないか。
宮 古 (宮古市、山田町、岩泉町、田野畑村)	令和 7 年 6 月 5 日 (木) 10:00～12:00	・ 地域から高校が無くなることは、保護者の通学負担増や町外流出等の問題を抱えることになる。東日本大震災の被災による人口減少が大きい地域については、他の人口減少地域と同一視して再編を進めないように留意していただきたい。 ・ 学区は盛岡地区への一極集中を防ぐために設定されているものと理解していたが、盛岡地区でも生徒数減少が進む中、学区制の撤廃により県内全域で自由に進学できる仕組みを検討するべきではないか。 ・ 高校教育の在り方を考える際には、地域の産業に適した学科配置となるよう検討していただきたい。 ・ 専門高校の魅力を感じる機会がないまま普通高校への進学が一般化しているのではないか。地元に残りたい生徒のためにも、工業、商業高校の価値を高め、進学の選択肢として魅力を持たせるべきである。 ・ 定時制、通信制高校について、今後、多部制や単位制のニーズが増えてくると予想される中、沿岸地区にも多部制、単位制の定時制高校が必要なのではないか。 ・ 小規模校、大規模校それぞれの特性を活かし、子ども中心の教育を推進していくべきである。
県 北 ① (久慈市、洋野町、野田村、普代村)	令和 7 年 5 月 26 日 (月) 14:00～16:00	・ 東北本線沿いと違い、盛岡の学校に簡単に通えるという状況ではないことから、子どもたちの学習機会を確保する必要がある。 ・ 中学校卒業業者について、5 年後には今年度と比較して 85%、10 年後には 60%を切るということを考えれば、普通科については集約していく必要がある。一方で、久慈地区の産業に合わせたアパレル関係、工業土木関係、水産関係といった学科の存続は必要だと考える。 ・ 少子化が進む中で、学校規模によらず、平等公平に高校教育を受けられるようにしてもらいたい。 ・ 定数を 35 人にすれば財政負担が生じると思うが、ドイツやアメリカのように 30 人程度にしていかなければ、将来、危機的状況になることを危惧している。

ブロック	開催日	主な意見・提言等
県 北 ② (二戸市、軽米町、 九戸村、一戸町)	令和 7 年 5 月 23 日(金) 14:30～16:30	・ 1 学級の定員を 40 人から 35 人に出来ないか、検討していただきたい。 ・ どうすれば地元の中学生在が地元の高校に進学するのかを考えたときに、学習面で差が出ないような施策が必要なのではないか。 ・ 各地域に高校を 1 校は維持した上で、地域の生徒が地元の高校を選ぶために、地元の高校の魅力を発信していただきたい。 ・ 遠隔教育を小規模校に限らず進めることで、科目開設の幅が広がるのではないかと。また、教員の複数校勤務、きめ細やかな指導の導入を検討すべきではないか。 ・ 医師確保や IT 人材の育成も重要であるが、小規模校で行われている、一人一人に寄り添った教育も重要であり、そのような学校を必要としている生徒も増加している。 ・ 小規模校だからこそ遠隔教育においても教員の丁寧なフォローがあるとか、学校間連携を可能にするとか、教育条件の改善を早急に進める必要がある。 ・ 高校の授業料無償化や併願制の導入により小規模校の存続が厳しくなる。入学者数が 2 年連続 20 人以下となった場合、募集停止となる基準の適用については、より慎重に検討していただきたい。

今後の県立高校に関する地域検討会議（第1回）（盛岡①地区） 意見交換の記録（要旨）

【盛岡市、雫石町、葛巻町、矢巾町】

令和7年5月20日（火）

岩手県水産会館 5階 大会議室

中村 一郎 盛岡市副市長

- ・ 公立高校の現状と進路選択については、市内には市立高校1校の他、7校の県立高校があり、普通科だけでなく専門学科や定時制、通信制など中学生にとって様々な進路選択が可能な状況である。地域人材育成の観点から、今後も多様な選択肢の確保を求める。
- ・ 私立高校と公立高校の共存の在り方について検討する必要があると感じている。市内には現在8校の私立高校があるが、国の就学支援金の所得制限撤廃により、進学費用の面でハードルが下がり、中学生が私立高校に進学しやすい状況になることが予想される。少子化に伴い、生徒数の減少が進む中、私立高校との共存や定員調整についての慎重な議論が必要になると感じている。
- ・ 令和7年度入試において、盛岡第二高校の定員割れが生じた。女子校ではないものの、男子の入学がない状況が続いているが、今後の県立高校の在り方を考える際に、県教育委員会として、男子生徒の受け入れ等の整備、検討があってもよいのではないかと。
- ・ 少子化に伴い、生徒数は減少傾向にあるが、市内の中学生の不登校生徒数は増加傾向にある。通信制高校に進学する生徒の数が増えている中、県立高校の定時制及び通信制の学びの環境整備について検討が求められる。

猿子 恵久 雫石町長

- ・ 雫石高校が存続するための魅力づくりに取り組んできた。現在、副食費、通学費、入学時費用等の支援を行っている。町と高校が連携して生徒募集に取り組んだ成果が出てきている。
- ・ 中学生の進路の選択肢を閉ざさぬよう、今後、1学級校の在り方については、柔軟な対応が大切である。また、盛岡市一極集中を是正する募集定員の調整や、私立高校と募集人数の調整等の検討も必要である。

觸澤 義美 葛巻町副町長

- ・ 生徒数の減少は、県内全ての市町村に関わる共通課題であり、広域での生徒募集の検討（学区外からの入学、いわて留学制度）が必要となっている。葛巻町では、葛巻高校の支援のために様々な教育環境の充実を図ってきた。特に、くずまき山村留学制度による県外からの募集の取組は、葛巻町及び葛巻高校に、関係人口の創出、人材育成の観点からも成果を上げている。
- ・ 青森県では、県外募集に関して、県教育委員会が先導し、「あおもり留学」のためにコーディネーターを配置し、学校紹介等の発信を行っている。県教育委員会も、高校の魅力向上に向けた取組を率先して強化することを期待する。
- ・ 生徒募集で成果を上げている小規模校に対する、教員の加配などの人的支援の充実を期待している。

高橋 昌造 矢巾町長

- ・ 高校生の学力向上策についての具体的な方針を明示し、県としての取組を強化する必要があると感じている。
- ・ 長期ビジョンの県政課題に対応した人材育成として、医学部医学科や旧帝大への進学者数を示しているが、県内にも国公立大学及び私立大学がある。地元の医療大学等との高大連携により、医療・

介護分野の人材育成に重点を置いた考えがあってもよいのではないかと考えている。

- ・ 高大連携の推進を通じて、地元で活躍できる仕組みを県として明確に位置付けるべきだと考えている。その取組が、県内定着の促進につながると感じている。

工藤 直樹 盛岡商工会議所 専務理事

- ・ 今後予測される少子化に伴い、高校と地域産業の連携強化が必要であると感じている。高校の維持と産業振興を踏まえた教育環境の整備について期待する。
- ・ 岩手労働局の発表によると、令和6年度に高校を卒業生し、就職した生徒のおよそ7割が県内に就職したとの報告があった。これは平成23年以降で最も低い数値である。高校には、地元の産業ニーズに応じた人材育成を進めて欲しいと感じており、地元根付いた産業の専門コースを設置することもよいのではないかと考えている。
- ・ 高校と企業が連携し、キャリア教育の充実を図ってはどうか。コミュニケーション能力や協調性が求められる社会環境において、外部人材を活用し資質向上を図ることは、高校と企業の双方にメリットがある。

山下 和男 盛岡広域森林組合 参事

- ・ 林業については、現在、人材不足が顕著である。戦後、造林した森林は伐採期になっているが、対応が進んでいない状況にある。岩手県の広大な森林の維持、林業を支える人材育成、専門学科の設置と充実を願う。
- ・ 県では、人材確保の手段として、林業アカデミーという研修制度を設け、人材育成に取り組んでいる。今後は、農業高校等に限らず、普通科高校にもPRし、体験する機会を設けていく。

高橋 基 (一社)しずくいし観光協会 事務局長

- ・ 雫石町内には、1校の県立高校があるが、町の地域経済及び交通への影響は非常に大きいと感じている。高校生は地元商店街で様々な活動に取り組んでいるが、町の活性化に繋がっている。また、公共交通機関を利用する生徒が多いので、公共交通機関の維持に貢献している。そうした地方活性化の観点からも地域に高校があることには大きな意味があり、存続は重要である。
- ・ 今後は、町と学校が連携し、地域の魅力を学ぶ機会を創出し、地元への愛着心を育むことに協力したい。このような取組は、長期的に観光面などにも効果があると期待している。

吉澤 信光 葛巻町商工会 会長

- ・ 地元の産業振興にとって、高校生の存在は非常に価値がある。葛巻町では、くずまき鍋を町内数店舗がそれぞれ考案し観光アピールの一つとして展開している。葛巻高校の生徒も、くずまき鍋の開発や魅力発信に取り組んでいるが、そうした地域と高校の連携は、町にとって貴重である。
- ・ 葛巻町は、くずまき山村留学として、いわて留学に取り組んでいるが、町外から進学した高校生が、地元消防団の音楽パレードに参加するなど、地域のイベントを様々な場面で盛り上げている。地方活性化という観点から、高校の存在は大きく、いわて留学による県外募集も価値がある。

辰柳 慎一 葛巻町産業振興協議会 副会長

- ・ 農業、特に酪農に従事する人材が減少傾向にある。インターンシップ等で高校生や専門学校生、大学生の就労体験を受け入れているが、岩手の地場産業である農業の人材確保に向けて、地域産業に従事する企業と高校が連携する必要がある。
- ・ 葛巻高校のいわて留学で進学した県外生や町外生に、酪農体験や見学の場を提供している。各地域でこのような取組を続けることで地域産業の担い手の増加に繋がると期待している。

廣田 諭宇祐 有限会社魚広 代表取締役

- ・ 長期ビジョンにある地域と高校の連携・協働は、高校生のキャリア教育という観点からも価値のあるものだと感じている。昨年度、高校生と企業担当者が交流する機会があったが、「何のために働くのか」、「起業する方法は」といった質問をたくさん受けた。産業構造のニーズが変化しており、地域産業や子ども、それぞれのニーズを満たす学びの在り方を検討・議論する必要がある。
- ・ 地域の企業と高校生が直接交流する機会を増やすことで、地域への愛着、定着に繋がると思う。高校の授業等で地域人材や企業を活用し、双方に良いものとなるような機会の創出を期待する。

針生 麻梨 リヒテック株式会社 代表取締役

- ・ キャリア教育の機会創出が、高校生の意識向上に貢献すると感じている。そのためには、地元企業の活性化が必須であり、将来的に、高校生の地元就職促進に繋がる。
- ・ 子ども達の職業観等の変化に伴い、多様な価値観や経歴を持つ子ども達が、地元で活躍できる柔軟な雇用体制と環境の構築も重要である。そのためには、地域と高校が協働して取り組む必要がある。

藤田 健一郎 盛岡市立河南中学校PTA 会長

- ・ 岩手県の今後 10 年、15 年先の生徒数の減少に驚いている。少子化に伴い、各高校がより一層、特色化、魅力化に取り組む必要があると感じている。
- ・ 特別支援学校への進学希望者が、適切な選択肢を確保できるような教育の機会の保障に向けた体制の拡充を願う。教育上特別な支援を必要とする生徒の数は増加しているので、そのような生徒の学びの支援を確保して欲しい。

櫻小路 天童 雫石町立雫石中学校PTA 会長

- ・ 県内公立高校の募集定員は、少子化が進み、より減少することが懸念されるが、生徒の希望する進路の選択の幅が狭まることは避けたい。次期県立高校再編計画においては、教育の機会の保障と教育の質の保証を図り、統廃合等の再編の際には、通学支援の検討を進めていただきたい。
- ・ 長期ビジョンを読んだが、情報量が多く、一般の方々にとって、理解するのに時間がかかる印象がある。次期県立高校再編計画の公表の際には、わかりやすい資料などで情報提供の工夫を期待する。

山岸 真理 葛巻町立江刈中学校PTA

- ・ 自身の子ども 2 人が葛巻高校で学び、どちらも国公立大学に進学した。町の公営塾による学習支援もあり、町内の高校に通いながらも、町外出身の友人達と切磋琢磨できたことは非常に価値があった。町が県立高校を支援し、協働して子どもを育て、支援する方向は、今後のモデルの一つになると感じている。
- ・ いわて留学（くずまき山村留学）をきっかけに葛巻高校で学ぶ生徒たちも、町のイベントに熱心に参加し、地域活性化に貢献している。いわて留学は、地域にも、地元の子どもにも良い刺激を与えている。

高橋 長兵 盛岡市教育委員会 教育次長兼学務教職員課長

- ・ 盛岡市立高校は、令和 5 年から令和 14 年の期間で高等学校教育改革基本方針を定めて、1 学年 7 学級という定数で学校経営を進めているところ。DX化も進み、入学志願者は、概ね定員を上回る状況が続いている。
- ・ 今後の県内の児童生徒数の減少を踏まえ、次期県立高校再編計画を基に、市立高校の基本方針も

中間年度に見直しを図る予定である。

古川端 零也 雫石町教育委員会 教育次長兼学校教育課長

- ・ 雫石高校は、小規模の高校だが、町の将来を担う人材の育成など大きな意義を持っており、通級指導や、虹色コンパスと呼ばれる町と協働した探究活動などに取り組んでいることもあり、令和7年度入試においては、定員を満たす志願者数となった。これは、町教育委員会と雫石高校が一体となって、隣接する秋田県の中学校説明会に参加するなどの取組が要因でもある。
- ・ 昨今の経済状況等から、保護者の経済的負担をできるだけ軽減し、生徒が充実した学校生活を送ることができるように、町として今後も入学時の負担軽減の支援等を継続していきたい。

石角 則行 葛巻町教育委員会 教育長

- ・ 中山間地域にある葛巻高校ではあるが、県の支援により遠隔授業も実施されている。そういった環境整備により学びの機会が確保されている。
- ・ くずまき山村留学により、全国から留学生を受け入れており、現在約30名の生徒が寄宿舎生活をしている。留学生は、地域との交流も盛んで、地域活性化の一助となっている。
- ・ 葛巻高校の入学者は、現在、半数以上が町外出身であり、地域と共に考えてきた成果だと考えている。町としても、公共交通機関の活用やスクールバスなどの通学支援を継続し、子ども達の学ぶ機会を確保していく。
- ・ 人口減少に伴う県立高校の再編だと思うが、地域に根差した学校の存続と支援策の強化に期待する。

高橋 雅明 矢巾町教育委員会 学校教育課長

- ・ 生徒数の減少に伴い、高校教育を通じて地域愛を育み、将来的なUターンに繋がるような高校教育の学習カリキュラムを各高校には期待する。
- ・ 子どもたちが、自分で人生を切り拓くために必要な資質・能力を備える機会を与えることは大事であり、そのためにある程度の規模を有する学校が必要であることは理解した。
- ・ 充実した高校生活を保障するためには、高校の適切な規模を維持する必要があると感じている。県立高校再編計画の策定の際にはその点も踏まえて慎重に検討していただきたい。
- ・ 今年度新設された南昌みらい高校は、不来方高校の時代から総合的な探究の時間を活用し、地域と密接に関わる学習を展開している。今後、県立高校と地域との連携は重要だと感じている。

及川 公子 盛岡市中学校長会（盛岡市立土淵中学校長）

- ・ 地域産業を担う人材育成については、高校だけではなく小学校からの経験と学びの積み重ねが重要である。小学校からキャリア教育を進め、地域の産業学習や企業等と連携した職場体験等の充実が必要だと感じている。
- ・ 高校においても、地域・企業・学校が連携し、コーディネーター人材を活用して生徒の地域愛を育むことが重要で、コミュニティ・スクールの推進は一助になる。
- ・ 地域課題の解決に向け、知事部局や産業界と協力し、人材育成をより戦略的に進めるべきだと考えている。その際に、専門高校の担う役割は非常に重要である。
- ・ 今後の生徒数減少に伴う県立高校の再編が進む中、教育の均等な機会提供のために、遠隔教育の拡充や通学支援なども必要となってくる時期が来ると予測する。県内どこにいても質の高い教育を受けられる環境整備を願う。

藤澤 崇 紫波郡中学校長会（矢巾町立矢巾北中学校長）

- ・ 教育上特別な支援を必要とする生徒、不登校の生徒について、定時制・通信制に頼るだけでなく、

支援が必要な生徒の柔軟な受け入れ態勢の整備が必要である。

- ・ 少子化に伴い、地域との連携・協働が高校も必要となってくると予測する。総合的な探究の時間を通じて、地域活性化の視点を持ちながら、地域とのつながりを強化し、特色ある学校づくりは今後の学校経営の重要な要素となると感じている。

西川 信明 学校教育室高校改革課長

- ・ 学力向上に関する計画的な施策等について、令和7年度入試における志願倍率は0.8倍であり、盛岡周辺地区の高校は倍率が1倍を超える高校があったものの、それ以外の地区は、ほぼ定員割れの状態である。このような状況は、中学生の学習意欲向上に繋がらないことから、適正な学級数の配置について次期県立高校再編計画においては検討することとしている。一方で、通学困難な1学級校等の小規模校においては、教育の機会の確保の観点から、学級数については配慮が必要であると承知している。
- ・ 県政課題についての補足であるが、県政課題は、県教育委員会のみならず、知事部局も含めた、全県的な課題を指しており、長期ビジョンにおいては、その中で医師確保、科学系人材の育成を挙げているもの。地域においては農業人材の確保や、半導体に関わる人材の育成など、県政課題は多岐にわたることは承知しており、県政課題を限定的に捉えているものではないことを御理解いただきたい。
- ・ 通学支援については、次期県立高校再編計画を提示していない中で、具体的な支援策を示すことは難しい状況ではあるが、支援策としてスクールバスの配備等が考えられる。その他、教育の機会の確保を考えた場合、状況によっては寮の整備なども必要になる可能性もある。
- ・ キャリア教育について、今回、長期ビジョンを策定するにあたり、小中学生からの意見聴取を行ったところ。その結果を分析すると、中学生は高校を選択する際に、自分の目指す姿や将来の職業、大学等の高校卒業後の進学先等について明確な意思を持っていることが読み取れた。そういった意味では小中学生のキャリア教育は充実しており、高校入学後の地域や企業、大学等との連携によるキャリア教育が重要になると認識している。

最上 一郎 学校教育室主席指導主事兼特別支援教育課長

- ・ 盛岡市周辺には、様々な障がい者を対象とした特別支援学校があるが、現状としては、盛岡市内の知的障がい者を対象とした特別支援学校の生徒数が増加傾向にあり、受け入れに際し、環境的に厳しい状況であることから、入学が難しい状況になっていることが予想される。特別支援学校に進学するか、それとも高校に進学するかの判断の際には、生徒やその保護者との学校見学や相談等を通じて丁寧に対応していきたい。
- ・ 中学校の特別支援学級から特別支援学校の高等部ではなく、全日制高校に進学する生徒の数の方が多い状況にある。また、紫波総合高校や雫石高校など、通級指導を行っている高校もある。さらに、高校によっては支援員の配置や、教員に対する特別支援教育の研修受講の奨励等の対応をしているところ。今後も、教育上特別な支援を必要とする生徒への対応については、関係各所と連携しながら進めていく。

中村 一郎 盛岡市副市長

- ・ 長期ビジョンの内容を実現する際に、教職員の力が非常に重要であると感じている。しかし、教員は、多忙化によるイメージ低下でなり手が少なく、教員採用試験の低倍率が目立つ。実際、岩手大学の教育学部の学生が、教員に合格しても、盛岡市職員を選ぶ例も珍しくない。教員のウェルビーイングを高める環境整備も重要な要素であると感じている。

西川 信明 学校教育室高校改革課長

- ・ 長期ビジョンを実現するに当たり、教職員の待遇改善や働き方改革は重要であると考えている。

高橋 長兵 盛岡市教育委員会 教育次長兼学務教職員課長

- ・ 県立高校の次期再編計画に併せて、盛岡市立高校の高等学校教育改革基本方針の見直しも必要となる可能性があるが、次期県立高校再編計画策定に向けた今後のスケジュールを教えてください。

西川 信明 学校教育室高校改革課長

- ・ 第3期高等学校再編計画策定に係る今後のスケジュールとして、8月上旬に第3期高等学校再編計画案を公表予定である。公表後、8月上旬から9月下旬にパブリック・コメント及び子どもからの意見聴取を行い、2回目の地域検討会議を開催する予定としている。その後、頂いた御意見等を集約し、修正案を提示した上で、11月中旬から12月下旬に修正案に関する3回目の地域検討会議を開催する予定である。令和8年1月下旬には最終案を示し、県議会2月定例会、教育委員会定例会における議論を経て、令和8年3月もしくは4月に再編計画の策定を予定している。

藤田 健一郎 盛岡市立河南中学校PTA 会長

- ・ 長期ビジョンには、併設型中高一貫校の検討について触れているが、現時点で中高一貫校を目指す学校等があれば教えていただきたい。

西川 信明 学校教育室高校改革課長

- ・ 現時点で、中高一貫校の設置等について具体的に計画しているところはない。なお、自治体から、中高一貫校設置の要望を受けていることもあり、今後、関係各所から御意見を頂きながら丁寧に検討を進めていく予定である。

県立高等学校教育の在り方に関する地区別懇談会（盛岡地区②）
意見交換の記録（要旨）

【八幡平市、岩手町、滝沢市、紫波町】

令和 7 年 5 月 27 日（火）

岩手県公会堂 2 階 26 号室

佐々木 孝弘 八幡平市長

- ・ 現計画において 1 学級校の入学者数が 2 年連続で 20 人以下の場合は原則として統合とされている一方、1 学級校も含めた各地域の学校をできるだけ維持するということが記載されている。次期県立高校再編計画においても、この方針を継続していただきたい。
- ・ 八幡平市は広大な面積を有しており、特に安代地区からの通学が困難であることから、地区内の学級数維持について配慮いただきたい。
- ・ 八幡平市では、平舘高校の教育振興会を組織し、年間約 1700 万円の予算で制服購入費補助・通学定期購入費補助・部活動支援等を実施しているが、平舘高校への入学者は減少している。少子化のほか、部活動で団体競技を実施できないことから、市内の中学校卒業者が他校に進学していることが要因と考えられる。
- ・ 令和 6 年度からいわて留学を開始したが、宿泊施設がないこと等により実績はゼロである。寮の整備等については、今後、ますます県と市町村の連携強化が必要となる。

佐々木 光司 岩手町長

- ・ 岩手町では総合計画の柱の一つとして、シビックプライドの向上を掲げており、町への愛着と誇りを持つ人材育成が町の持続可能性の要となると考えている。
- ・ 沼宮内高校の存続が危機的状況の中、岩手町では魅力化プロジェクト等により地域との連携を強化する取組を進めている。
- ・ いわて留学について、今年の 4 月に岩手町が寮を整備し、現在 7 名が生活をしている。今後はいわて留学生の人数制限の撤廃を検討していただきたい。
- ・ 遠隔教育・オンライン授業等の導入により教員不足を補い、教育現場のイノベーションを促進し、岩手県の教育の価値を県外に発信するべきではないか。その中で、県外留学生を安定的に確保しながら、高校教育の運営を図る必要があるのではないかな。

岡田 洋一 滝沢市副市長

- ・ 滝沢市内の中学生は沿岸地域の水産系高校や近隣の雫石高校など、多様な進路を選択している。
- ・ 近年、市内の高校と協力し、地域課題の解決や市政推進に関する提言を大学生と共に行っているところ。
- ・ 今後、生徒数が減少する中、生徒が自分の将来に向けて多様な学びを選択できる環境や、県内各地域の特色を生かした学びの環境を引き続き作っていただきたい。
- ・ 私立高校では、新たな受験制度の導入が進んでいることから、公立と私立が共存できる受検制度の整備も進めていただきたい。

熊谷 泉 紫波町長

- ・ 紫波総合高校は 1 学年 3 学級だが、縮小傾向にあり、生徒数の維持と総合学科高校の魅力向上が重要課題である。
- ・ 総合学科の縮小傾向が見られる中、専門高校との差別化を図り、より魅力的なコースの設置が必要ではないか。例えば、紫波町の産業であるワイン醸造を生かした醸造や発酵に関する学びの場を

作ってはどうか。

- ・ 総合学科高校となった成り立ちを踏まえつつも、総合学科高校をより魅力的な学びの場とすることが必要である。

高橋 淳 株式会社高橋農園 代表取締役

- ・ 紫波町内の人口減少は緩やかだが、県内では深刻な課題であると認識している。現在、移住者について話題となっているが、市町村においても魅力的な発信を行い、移住促進を進めていく必要があるのではないか。
- ・ 中学生に対する高校の情報提供が不足している。特に農業高校や工業高校の実態が伝わっていないことから、現在のAIやスマート技術が導入された状況を広く周知する必要がある。
- ・ 農業でも経営能力が求められており、高校生の段階から経営に関する教育を行っていただきたい。
- ・ 現在の農業高校の学科が現状と合致していないため、よりビジネス要素を強化した学科に変更していただきたい。

塚田 崇博 Aqsh株式会社 代表取締役

- ・ 生徒のリーダーシップ能力とコミュニケーション能力の二つが、近年、弱まっていると感じている。
- ・ ハロウインターナショナルスクールでは、人と人との繋がりを重視するプログラムを重視している。同じ内容でなくても、そうした視点を参考にしてはどうか。
- ・ 八幡平市では、高校生に対し企業のインターンシップを実施しており、盛岡市に比べて市内での就職率が高い。企業のコミュニケーション能力や、リーダーシップ能力が一因となっていることから、高校教育のプログラムにもそうした視点を取り入れてはどうか。

立花 賢生 有限会社タチバナ 代表取締役

- ・ 八幡平市の安代地区では、秋田県や二戸地区の高校に通う生徒もいるものの、平舘高校への進学者が一番多い。地域の中学生の受け皿として、平舘高校を存続させて欲しい。
- ・ 八幡平市は観光に力を入れていることから、観光に特化した学科を作ってはどうか。

中村 祐紀 有限会社外山商店 代表取締役

- ・ 高校教育に関しては、都市部と地方の公平性の担保が必要であり、通学時間についても60分以内で通学できる範囲に学校があることが望ましい。
- ・ ICTの活用や広域連携で教員が学校を移動して授業を行うなど、各校で同じ開設科目にするといった取組を検討していただきたい。
- ・ 金融、SNSリテラシー、LGBTQ等、様々な教育が必要となっており、専門性を持っている地域の方に講師を依頼するなど、地域の力を活用できることが望ましい。
- ・ 他県ではマンガ学科や芸能を目指すコースを設置した学校もあることから、専門性のある学科の設置も検討していただきたい。

府金 秀一 岩手町認定農業者協議会 会長

- ・ 中学校卒業予定者数は減少傾向だが、令和22年から23年には底を打ち、増加に転じた場合の状況についても考えなくてはならない。今後、若者の収入や結婚環境を整えなければ、地域や日本の存続が危ぶまれる。
- ・ 現在は学びの機会が広がり、努力次第で希望する進路を選べる時代ではあるが、大学進学後に学びが終わると考える人が多い。一生学び続けることが大切であり、子どもにもその考えを伝え、社会や自身の目標について考える力を養うべき。

- ・ 県立高校を再編するということが自体は悲しいことであるが、人口増加があれば再び活性化できる。

白澤 仁 株式会社栄建 代表取締役

- ・ 滝沢市の商工会は約 900 会員がいるが、人材不足や事業承継問題、M&A の影響で零細企業の退会が増加しており、社会の在り方が変わりつつあると認識している。
- ・ 現在の高齢者率は約 25%だが、20~30 年後には 45%に達すると予測されている。その時代を見据えた教育の方向性を議論しなければならない。
- ・ 今後の教育政策を考えたときに、公立と私立の共存に踏み込まなければ、根本的な問題解決にはならないのではないか。

太田 豊 滝沢市農業委員会 会長職務代理者

- ・ 滝沢市農業委員会では盛岡農業高校の生徒との懇談会を実施し、農業知識の共有を進めている。盛岡農業高校卒業生は滝沢市の産業に大きく貢献している。
- ・ 農業社会が他産業に対抗するために、学力の重要性が増している。子どもたちには大学進学を勧め、視野を広げる教育を促している。
- ・ 盛岡農業高校の寮教育は教育環境として素晴らしいものと感じている。県立高校の再編を進める際にも、寮を整備し県全体から生徒を受け入れる仕組みを検討するべきではないか。

富岡 靖博 株式会社トミオカ 代表取締役

- ・ 南昌みらい高校の統合により定員が約 120 名減少したものの、紫波総合高校の入学者数に変化はなかった。やはり生徒のニーズは普通高校の方が高いと考えられる。
- ・ 紫波総合高校を今後どう盛り上げていくかを考えたときに、いじめのない環境や楽しく通学できる学校づくりを重視するべきではないか。そのことが、在校生から保護者、中学生に魅力として伝わるのではないか。
- ・ 財源の話は別として、紫波町の給食センター移転新築を機に、紫波総合高校で給食の無償提供を行ってはどうか。また、エコロジーフード系列との連携により、地域食材を活用する仕組みを構築してはどうか。
- ・ 岩手県内の建設・土木業界の人材不足が深刻化しており、今後のインフラ整備を考えたときに建設・土木技術者の人材育成も重要である。
- ・ 工業高校の学科編制が時代のニーズに即していないのではないか。建設業協会等と県土整備部、建設技術振興課との懇談を行う機会はあるが、県教育委員会とはそうした機会がないことから、県教育委員会に業界のニーズを伝える場が必要と考える。

高橋 直 八幡平市立西根第一中学校PTA 会長

- ・ 高校進学に関して、進学先の選択に悩む保護者が多く、子どもの希望と経済的負担の面で苦慮している。
- ・ 平舘高校について、進学先の選択肢となるような魅力を発信する必要がある。高校生が小中学生と交流し、高校がどういった場所かを発信することで進学率向上につながるのではないか。
- ・ 現在、医療・福祉分野でも深刻な人材不足が発生している。資格取得に多額の費用がかかるため、進学を断念するケースもあることから、支援策の検討も必要である。

畠山 仁士 紫波町立紫波第三中学校PTA 会長

- ・ 近年の高校入試倍率を確認し、人気のある高校の倍率が高い一方で、定員割れの高校が多く存在することに気づき、変化を実感している。また、生徒数の減少がこれほど進行しているのかと驚きを感じた。

- ・ 生徒は大学受験だけでなく、将来のビジョンを考えながら高校を選択しており、進路決定の意識が高まっている。
- ・ 紫波町は盛岡、花巻、北上方面への通学が可能であり、生徒の進学先の選択肢が多い地区ではある。地域によって進路選択が制限される状況をできるだけ減らし、各地域で特色ある高校づくりを進めることで盛岡一極集中の是正につながるのではないかな。
- ・ 遠方の高校に進学する際の負担軽減のため、通学支援策も必要ではないかな。

星 俊也 八幡平市教育委員会 教育長

- ・ 平舘高校は地元で「ひらこう」と愛称され、地域産業を支える重要な存在である。伝統文化の継承や卒業生の地元就職を通じて、八幡平市に欠かせない存在として認識されている。
- ・ 定員を大きく下回る入学者数に対し、市として強い危機感を持っている。市内中学校からの進学者が減少し、盛岡市の私立高校への進学者が増加傾向にある。
- ・ 今後の高校授業料無償化でその流れがさらに加速する可能性があるが、これまで私立学校の募集定員について、どのような協議がなされてきたのか伺う。
- ・ 公立と私立の共存のためにも、県教育委員会が積極的に公立と私立の調整を主導するべきではないかな。
- ・ 長期ビジョンに「広い県土と中山間地域に配慮した学校配置」や「地域産業を担う人材育成」についての取組方針が記載されたことは、非常に心強く感じている。

佐藤 卓 岩手町教育委員会 教育長

- ・ 県の方針として、小規模校を大切にするという部分が感じ取れるようになってきており、大変ありがたいと感じている。岩手町は、沼宮内高校に対し様々な支援を行っており、引き続き高校の魅力化を図っていきたいと考えている。
- ・ 遠隔教育については、10年ほど前から試行されていることから、その成果を各学校に広めていただきたい。
- ・ 普通高校にも支援が必要な生徒が在籍していることから、加配などの配慮をいただきたい。
- ・ 大槌高校が探究学科を設置したように、各学校が独自の特色を持つ学科を設置する動きを、県教育委員会が主導していただきたい。

太田 厚子 滝沢市教育委員会 教育長

- ・ 全日制高校への単位制導入、遠隔教育の推進、支援学級の併設により、どの生徒にも学びの機会が保障されることを評価したい。
- ・ 滝沢市内の生徒も水産高校など遠方の学校へ進学する例もあり、学びの選択肢を広げることが重要である。また、将来の職業と結びついた学びの機会を確保すべきと考える。
- ・ 地域産業の伝承や人材育成に向けた学びを充実させるため、専門高校の教育内容を地域産業と連携させ、専門分野に特化した学びの場を作る等、専門高校を差別化、個別化していくことが必要ではないかな。

佐美 淳 紫波町教育委員会 教育長

- ・ 県立高校再編計画を進める際には「なぜ実施するのか」について理解される必要がある。理解されないまま議論を進めると混乱を招くことが懸念される。
- ・ 紫波総合高校は地元からの入学者が少ない状況である。紫波町は他地区の学校にも通いやすいことから、より魅力のある学校に進学していると思われる。
- ・ 総合学科高校は系列の設定が大事であり、差別化を図るためにも経営、ICT、醸造など、時代のニーズに合った特色ある系列の導入が必要なのではないかな。

- ・ 県の方針では小規模な総合学科は広域での再編の対象になるため、紫波総合高校も対象となる可能性が高いことから、今後は、普通高校等は違う総合学科高校の魅力を向上させなければならない。
- ・ 国の制度として総合学科が設立されて約 20 年が経過したところであり、県としてその在り方を検討する時期に入っているのではないかと。

及川 博文 岩手地区中学校長会 （滝沢市立滝沢中学校）

- ・ 生徒数の減少が続く中ではあるが、配慮が必要な生徒は増加している。そうした生徒の進路実現をどう図っていくかが今後大切になってくる。
- ・ 不登校となった生徒は、何かのきっかけで改善することもあることから、高校入学をきっかけにその生徒の能力を発揮できるような体制を作っていくべきではないかと。
- ・ 中山間地域の生徒の通学負担軽減のため、交通の利便性を考慮した高校配置をお願いしたい。また、現在の特例校の維持、拡大も検討していただきたい。
- ・ 地域に関連した探究学習を 3 年間系統的に行う体制づくりについて、高校と地域をつなぐコーディネーターを配置して進めるべきではないかと。
- ・ 私立高校への単願で進学する生徒が増加している傾向がある。志望先を決定する時期も早まっていると感じており、公立高校の魅力発信の充実や入試に向けたスケジュールの見直しが必要ではないかと。

西川 信明 学校教育室高校改革課長

- ・ 特色ある学科等の設置について、北海道の幌加内高校のように、学校設定科目として「そば」に係る授業を週に 2 コマ設定している学校もあり、岩手県においても地域の特徴を活かした学びにより、高校の特色化を図ることを検討したい。
- ・ 工業学科については、充足率の低い学科もあることから、今後、校長や関係団体等と連携し、見直しについて検討したい。また、建設業協会等からの御意見についても、機会を捉えて伺いたいと考えている。
- ・ 私立高校の定員については、私立高校を所管するふるさと振興部とも連携し、今後も私学協会の代表者等と積極的に意見交換を行っていく。
- ・ 総合学科高校については、第 3 期県立高校再編計画の前期計画期間中に、これまでの総合学科高校の検証を行う予定であり、併せて、今後の在り方についても検討する予定としている。

富岡 靖博 株式会社トミオカ 代表取締役

- ・ 盛岡工業高校の移転計画について、旧盛岡南高校跡地への移転が進んでいるとのことだが、今後のスケジュールや流れが現時点で決まっていれば教えていただきたい。

西川 信明 学校教育室高校改革課長

- ・ 旧盛岡南高校校舎の大規模改修に約 2 年、産業教育施設の整備にさらに約 2 年、計 3 ～ 4 年かかる見込みである。
- ・ 早期の設計予算確保を目指しており、できるだけ早く移転に着手したいと考えている。